

【事業名】北海道十勝地方および釧路地方におけるアサマジミ北海道亜種および岡山県真庭市におけるウスイロヒョウモンモドキの保全 【団体名】特定非営利活動法人日本チョウ類保全協会

事業の背景・目的

アサマジミ北海道亜種およびウスイロヒョウモンモドキは、ともにかつては広い地域に生息していたものの、近年生息地が急激に減少し、絶滅が強く危惧される状況となっている。そのため、この事業では、両種の生息状況の調査、生息環境の改善、保全体制の構築等を行って、生息可能な草原環境を復元するとともに個体群を回復させることを目的とする。



事業の内容

事業①生息状況の調査、再導入

- ・成虫期または幼生期に生息状況の詳細な調査を行い、個体群の状況を把握。
- ・ウスイロヒョウモンモドキでは、再導入試験を実施した。

事業②生息環境の改善

- ・生息地が草原であるため、環境を維持・復元するために、ウスイロヒョウモンモドキでは約5haの草原の草刈り、アサマジミでは、外来植物の抜き取りおよび草刈りを行った。
- ・アサマジミの食草においてシカの食害が出ており、防鹿柵を設置。

事業③保全体制の構築

- ・地域の行政等との連携した取り組みを進めている。
- ・岡山県真庭市では、自然再生協議会に参画し、草原が継続して利用されるような仕組みづくりを進めている。

得られた成果

北海道のアサマジミでは、防鹿柵を設置するとともに、継続して生息環境の改善を行い、良好な環境を復元する取り組みを進めている。ウスイロヒョウモンモドキでは、草原における草刈りを大規模な面積で実施するとともに、再導入試験を行った。また、それぞれの地域で、保全関係者と連携して取り組みを進め、体制の構築を前進させた。

北海道のアサマジミでは、生息状況が脆弱であるため、できるだけ早期に絶滅を脱する取り組みを進め、ウスイロヒョウモンモドキは、継続して大規模な草刈りを行うとともに、再導入の手法も確立させることで、早期の定着がはかれるようにしていく。

